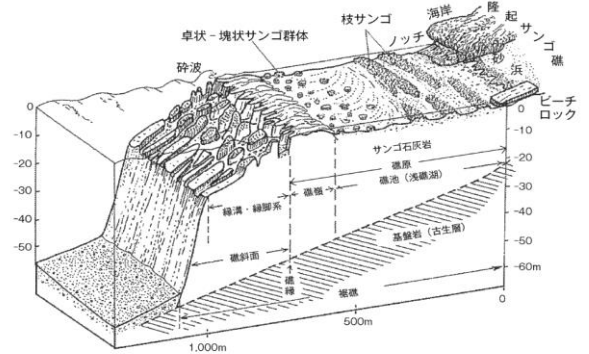
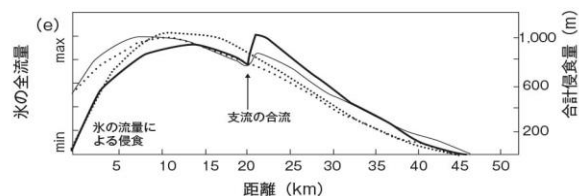


ページ	出現箇所	誤	正(補足等)
v, 202	9.1見出し	波と波の作用	波の種類と波の作用
6	右↑11	$W_v$	$W$
15	表1.5	[氷期・間氷期サイクル]	完新世と更新世の間に移動
37	図2.12(b)	波線の面をずらす	破線の面をずらす
49	図2.29	横軸の単位	横軸の単位m
105	図5.3	鈴木麻美	鈴木麻沙美
110	左↑5	矮生低木	矮小低木
118	右↑22	地下水が, その通路沿い	地下水となり, 通路沿い
137	右↓5	霜柱	アイスレンズ(ここに下10行目の説明文を移動)
137	右↓7-8	;霜柱クリープ	削除
137	右↓10	発生することが多い.	発生することが多い(☞12.2.5項).
138	図6.15B, C	凍結クリープ	フロストクリープ
138	図6.15タイトル	霜柱クリープとソリフラクションの…	ソリフラクションの…
143	左↓17	landside	landslide
151	補遺↓3	数年前	12年前
162	表7.3	粗度係数 $n$	粗度係数 $n(s \cdot m^{-1/3})$
167	右↓10	減衰時	減水時
170	右↑9	堆積物の	堆積物を
172	図7.24	(横軸)流重	流量
178	図8.1	土層表面のせん断抵抗	土層表面のせん断抵抗
182	コラム8.2↓7	河流	下流
185	右↓8	オンタリオ湖	エリー湖
190	左↑1	現れる.	現れる,
194	左↓14	細粒・シルトや粘土などを含む	細粒シルトや粘土などを多く含む
194	右↓10	小さくなり, 流速が小さくなるため	浅くなって流速が小さくなるため,
197	左↓14, 20	低置面	底置面
197	左↑21	低置層	底置層
203	右↓7	理論的に	統計学的に
220	左↑15	は存在しない	の報告はない
223	左↓1	礁斜面・礁原(礁嶺)	礁斜面・礁嶺
223	図9.29の出典	『自然地理学事典』(朝倉書店)	『自然地理学事典』(朝倉書店)を一部改変
223	図9.29	卓上・塊状サンゴ群体 礁原(礁嶺)	卓状・塊状サンゴ群体 礁嶺 (礁原の範囲を追加)



225	右↑7	マングローブ	マングローブ海岸
229	図9.36	最下図の隆起量, 下の破線位置	
234	右↓2	貯留する	貯留される
236	コラム10.1↓5	ものもある)	ものもある
237	左↑22	流速	風速
238	図10.7説明文↓2	関係がある)	関係がある
252	左↓4	で, 長さにくらべて幅が広い.	である.
252	図11.5(a)	$c = Q/h$	削除
254	図11.6	0°	0°C (6カ所あり)
254	図11.6	圧力融解点(金層が…	圧力融解点(全層が… (2カ所あり)
257	表11.1	Scautre	Scautbre
257	表11.1	Vesl-Scautbreen 英国 90 10 50	1行分削除
257	表11.1	Meserve	Engabreen
260	左↑11	条痕	擦痕
263	右↓21	というものもある	というものもある

265 図11.17(e) グラフの線の太さを右図のように変更



265	図11.18説明文↓1	氷河による体積	氷河の流量
274	左↓5	最終氷期最寒冷期	最終氷期最盛期
275	図11.33説明文	文末に追加	アルファベットは主な都市.
277	左↓6	後述	☞11.4.1項
280	図12.3	冬の気温	最低温度
280	図12.3	夏の気温	最高温度
280	図12.3	気温が季節変化する	地温が季節変化する
281	右↓4	凍土の上部の	凍土より上の
282	右↓11	ことがある.	ことがある(☞図6.15A).
283	図12.7タイトル	奥只見湖の南の	奥只見湖の南西の
293	右↑6-3	アラスの底で…アイスウェッジが発達する(図h).	サーモカルスト湖が堆積物によって埋積され縮小し, 永久凍土が再発達すると, 後成的アイスウェッジやピンゴが形成されることもある(図 g, h).
296	右↓25	今岡照輝	今岡照喜
301	中↑17	低置面, 低置層	底置面, 底置層